

様式第 3 号(第 4 条関係)

## 会 議 録

1. 附属機関等の会議の名称 第 5 回「元気センター(仮称)」検討委員会

2. 開催日時 令和元年 11 月 8 日(金) 19 時から 20 時 50 分まで

3. 開催場所 松川町役場 2 階 協議会室

4. 出席者氏名 「元気センター(仮称)」検討委員

中平文夫、黒澤哲郎、田村多恵子、原 節子、佐々木孝子、北原紀子  
竹内恵美子、山本安津子、大澤英一、何原弓弦、市岡すみ子、加藤 博  
飯島 光、北林 皎、宮澤武彦

【地域福祉連絡協議会】

山田俊文、熊谷幸代、小沢尚美、金子八恵子、大澤孝史、高坂めぐみ  
関 秀之

【町】

宮下智博、米山政則、米山兼敏・佐々木静香

(欠席:北原ますみ、岡村匡人、伊藤頼人、小池健太)

5. 議題(公開)

- (1)「元気センター(仮称)」に係る経過について
- (2)「元気センター(仮称)」についてのご意見
- (3)意見交換
- (4)その他

6. 非公開の理由(会議を非公開とした場合)

—

7. 傍聴人の数

1 人

8. 会議資料の名称

- ・第 5 回「元気センター(仮称)」検討委員会 次第
- ・元気センター(仮称)に係る経過のまとめ (資料No.1、1-1、1-2)

・「元気センター(仮称)」についての意見 (資料№2)

9. 協議の概要

1. 開会 課長

2. あいさつ 宮下町長

3. 会議事項

(1)「元気センター(仮称)」に係る経過について

(2)「元気センター(仮称)」についてのご意見

米山課長より説明

(3)意見交換

委員:自治会など住民への聞き取りをかなりの所で行っているが、ご意見が出ていれば参考までに聞きたい。また地域福祉連絡協議会と元気センター検討委員会との違いは?

事務局:資料 1-1 の 2、聞き取り結果を記載させていただいている。区からは特別なご意見はなく、北名子自治会、北垣外自治会からは施設に対して反対はなかった。周囲の道が狭いため、拡張できないかとの意見をいただいた。また 1 軒、敷地に隣接して民家があるが話しはしているのかどうかご質問いただいた。その後所有者と話し合いはしており今後検討と伝えてある。地域福祉連絡協議会は、関係施設スタッフの意見の集約を行ってから、検討委員会へ繋げていった。

委員:むしろスタッフと平らな所で意見交換ができた方が面白いのではないかと感じた。

委員:佛子園の視察参加し「ごちゃまぜ」を見てきた。松川へそのままは難しいとは感じた。コミュニティカフェの方々からはあの場所が良いとの声があるが、元気な方々なのでどこでも大丈夫とも思う。エコールは元気な子供たちがハローミヤに来てどうかと。

委員:エコールについて、長期休暇の間、遊ぶ場所としてあの場所はどうかと。検討してもらいたい。

委員:利用者や今後使うであろう 30 代~60 代など意見を聞くことも必要。「早く」との声もある。緑の件があるが、現在の場所は断層上である以上あの場所でない方がよい。庭園などの手もある。駅との利便性の声もある。ハローミヤの場所、2 億あればキッチンとしたものが建て替えられるのでは。屋根と柱を残して雨天時でも使える施設でもいいのでは。

委員:ごちゃまぜ=1つの建物にみんなが入る事ではないのでは。ハローミヤ1つだけだと無理があるのでは。民家や近所の建物に広げられるようにしてはどうか。

委員:正直迷っている。色々な意見が聞こえている。何故そもそも弁護士が町へ話しを持ってきたのか。元 82 銀行員から「よくあんなものを買ったな」とも聞いた。新井の空き店舗など活用できないか。新井は夜、客がいない。色々な面で町の活性化考えていかねばならない。

自分の公募理由は“えみりあ”が町民の意見を聞き良い物ができるとの話だったが、実際はエレベーターが奥だったり、トイレのドアが自然に閉まらないなどの不便さがあったため。役場のやり方も上から目線の進め方と感じる。例えば駅伝コースの変更に対して地元にも事前に説明がなかった。今までは沿道で応援していたのが難しくなった。広く意見を聞いてほしい。

委員：ハローミヤの場所を使う事は良いことだという意見を多く聞く。が、レイアウト。出来てみたらこんなはずじゃなかったという事は多い。実際の利用者の声を拾う事が大切。周りの方々への説明は、決まってから下りてくるので地域の方が良く分かるように説明を。こどもカフェ、当初入る予定が事情により入らなくなってしまった。上片桐へ行きたいが新井の人たちからは遠いという声も聞く。町の中で何カ所もあるといい。

委員：ハローミヤ跡地に建てるのは良いが、既存を使うのは不安があり一番心配。建て替える希望する。どの事務所がそこに入るかはそれから考える。

コミュニティカフェの利用者は今の場所を希望しているが、あの場所でないほうが良い。

委員：第4回まで建設委員会を開催。基本的には決定していた事。地元へも説明している。何故ここまで話しが来ていたのに進んでいないのか。このままあっちからこっちから反対意見が出たら話しがなくなってしまう事もあり得る。そうすれば町として大きなマイナス。台風幸いにも何もなかったが、屋根が飛んだら大きな問題になっていた。予算も付き、議会にも説明してある。足踏みしている場合ではない。

委員：あすなる利用者として出席。当初旧北名子保育園についてはこの場所は臨時の場所と聞いていた。新しい場所を作るべきだと考える。現在の場所はトイレが遠く男子トイレは故障もある。ハローミヤ跡地でいいと思う。

委員：公募のため細かい事は分からない。レイアウトを見ても広いのか狭いのかも分からない。少なくともスタッフさん達が打合せを行っているため、その人たちの意見が一番大切ではないか。尊重すべきではないか。使ってみて色々出ると思うが、どんな事でも出るものだと思う。一番の問題は耐震問題がある施設を使っていることが問題。

委員：町の方向性は変化があったのか。

事務局：実際に使う方の意見がキチンと吸い上げられているのかの確認を行った。

委員：前と同じ方向で、委員も同じであれば同じ意見しか出ない。いっそ委員を変えてもいいのではないかと。法人に考えがあればそれを聞かせてほしい。

委員：一端クールダウンも必要なのでは。蒸し返すようになり一番使うスタッフの声がもうちょつとストレートに聞きたかった。大枠は残しながら検討してもいいのでは。

委員: 視察の「ごちゃまぜ」とはどういった事か。ハローミヤに入ることでどういった空間ができるのか楽しみにしていた。精神の方々に昔関わった時、(個人名)氏のお宅を借り居場所としていたが、段々外との関わりができてきた。自分たちから発信していく事で地域の皆さんと話しができるようになった。「ごちゃまぜ」実現できたら素晴らしい事だと思った。オレンジカフェも皆さんそれぞれが個性を尊重することができるようになって来ている。そういう学びができる場所ができる事。どういう場が「ごちゃまぜ」と言うのか皆さんの意見を聞きたい。

委員: 今回から参加。経過は議会等で報告を受けていた。幾度となく検討していただいている。が、当初の老人福祉センターの耐震や土砂災害危険地域の件が住民の皆さんに浸透していないのかな、と。更に伝えていかないといけないのかなあと。厚労省の言う共生社会の実現への取り組み、佛子園の視察させてもらった。今後の福祉施設のあり方、住民の方にも広げていく必要がある。先日佛子園の新たな取り組み「輪島」に行ったら福祉に対する考え方、地域の方の考え方、20年遅れていると聞き、今の施設の実現に3年かかったとの話し。具体的にどのような施設にするのか。空き家を利用して半径300M周辺での取り組みなど。ハローミヤを利用するにしても全部が全部詰め込まなくても良いのではないか。近くの空き家を利用するのも手だと勉強してきた。この検討委員会の中で意見交換ができれば。

委員: 今回から出席。議事録に目を通させてもらった。一つ「ん？」と思ったのは、皆さんが「ごちゃまぜ」という言葉に拘束されているのではと感じた。「ごちゃまぜ」は佛子園の言葉。松川町社協では「みんないっしょ」。佛子園の視察で共生社会のやり方を見させてもらった。金がかかっている。あれを松川では無理と感じた。その後視察で「輪島」を見た。空き家の活用として、一つの拠点を作ったハブ方式。食堂と+αのミーティングルーム。他の空き家にそれぞれ入る形。感心したのは「ママカフェ」料理を自分で作って食べる。横でB型の方が料理して垣根がない。ショートステイの場へ学校帰りのお子さんが寄っていく。Hug。今年から日本財団の支援を受けた。補助の条件3年補助の後、自立していけるようにしていく事。以前視察したサミートスということもカフェは、配食して利益を得て子供に還元していた。黒字は難しい。川崎県立住宅の跡地に養老施設ができそこにお子さんが遊びに行く。各家庭のお子さんと老人の触れ合いの場となっている。元気センターも苦勞してあそこまで作ったものを少し手直しして行っていくべきでは。

協議会: 私の中では「ごちゃまぜ」「みんないっしょ」すごく良いと思っている。そんな中耐震の問題。安全を第一に考えなくてはならない。連絡協議会ではそれぞれの意見をすり合わせてこの会に参加させてもらっている。駐車場や緑の問題、平屋ではなく二階にしてスベ

ースを得ることで、それぞれ活用できるのではと考えている。

協議会:正直な話、この先どうなっていくか不安がある。エコールは障がいを持った子どもの放課後の居場所として活動している。元々なかった居場所を保護者の声に法人が対応してきたもの。障がい児の地域の居場所。法人だけではなく地域でも受け入れてくれる場所を、制度を越えて繋がる場所が必要と考える。以前町の図書館を利用させていただいたとき、静かにしなければいけない場所ではあるが、感情を抑えることが難しい子は声などが出てしまい、注意されたこともある。ハローミヤに行く事で今のような活動の展開は正直出来ないと思う。基本外で遊ぶ、自然の中で遊んでもらいたい。正直窮屈になると思うが、長期休暇などではあの場所を出て活動を考えていければ。

委員:図書館の話し、初めて聞いた。是非外へも発信を。

協議会:何度か利用者間で話し合いを行ってきた。自分たちから地域へ出ていきたいとの声が出てきた。地域の方にあすなろが居場所として認められる事が必要と考える。どの場所に行ってもあすなろを利用している方の想いを発信できるようにしていきたい。

課長:なるべく早く。一方慎重にとの声。ごちゃまぜの考え方も再検討が必要と考える。住民の方への周知足りなかったと反省。全てを網羅は難しいが事務局としての方向を出せれば。

事務局:元気センター出来る事で今までと違う方向が出せれば。「みんないっしょ」空き家などハローミヤの建物をどうするかから広げていきたい。意見を集約して委員の皆さんにたたき台を示し検討をお願いしたい。

委員:小グループで方向性を示していき事務局へ投げかけるのも必要ではないか。

委員:町又は委員で方向性を。町としての方向性に一貫性がない。町として毅然とした方向性がほしい。

台風の際避難した人は好評だったが、福与の人間には宮ヶ瀬を渡って“えみりあ”まで来いとはどういった事か。

事務局:台風 19 号では伊那の美和ダムの放流により、増加した水が松川町に到着するのが深夜 1 時。到着する前に避難してもらうかが課題だった。説明不足は反省したい。

事務局:いただいた意見集約して、事務局としてたたき台を示し、年明けこの会議をお願いしたい。

委員:町としてはいつごろまでにやろうと考えているのか。当初計画では今年 7 月に着工予定。

事務局:今のスケジュールでは 1 年は向こうに行ってしまう。

委員:もしもの時、エコールの障がい児と老人センターの老人は見捨てることになる。エコール

では地震の保障は町ではできないとの事だったため、自身で何かあったら責任はとれないと納得してもらって一筆もらった経過もある。

委員:あの場所にあること自体がどうなのか。一時的にどこかに移動は考えられないのか。

事務局:あくまでも私案だが東小を一案として考えている。利用されている方はほぼ送迎を利用しているので一つの方法ではある。まだスタッフとは話し合っていないが。

委員:事務局集約して1月頃検討したいとの事。P7④-11がハローミヤに目をつけた一番の理由と考えている。事務局はその点を重視して行うべき。議員さんからも出たが「ごちゃまぜ」はらんごくなイメージ。「みんないっしょ」が良いのでは。空き家利用も検討してもらいたい。

午後8時50分終了